

# 2026年度 研修実施計画

## 1 研究主題について

ともに学ぶ楽しさを味わい、主体的に活動するこどもをめざして  
～こどもから出発する授業～

「ともに学ぶ楽しさを味わう」とは、こどもたちがなかま（他者）とともに思考を共有・比較することを通して学びを広げたり深めたりすることによって、「わかった」「できるようになった」「新しい考え方を知ることができた」と感じることである。

「主体的に」とは、こどもたち自身が学ぶことに興味や関心をもち、自分なりの目標や課題意識をもちながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげようとすることである。

「こどもから出発する」とは、こどもがもっている「問い」や「疑問」、「考えたいこと」などこどもたちが感じていることや思っていることに寄り添うということである。学びの主体はこどもであり、教師が「どう教えるか」ではなくて、こどもが「どう学ぶ」かを大切にしていきたい。

## 2 主題設定の理由

昨年度まで算数科・国語科などを中心に上記主題を掲げ、こどもたちが「ともに学ぶ楽しさを味わい、主体的に活動する」ためには何が重要になるのかを考え研修を進めてきた。昨年度は、一昨年度までの成果や課題を踏まえ、「学びあう（聴きあう）」ことを捉え直し、学びあう（聴きあう）こどもの姿とはどのような姿なのか、こどもたちが学びあう（聴きあう）ためにはどのような手立てが有効なのかを整理することを中心に据えて、以下3つの柱で研修を進めてきた。

- ①主体的に課題解決に向かうことができる学習の手立て
- ②考えを伝えあい、ともに学びあう学習の手立て
- ③学びあえる（聴きあえる）関係づくり

聴きあえる関係づくりを大切にしながら、単元を見通すこと（単元ゴールの明示・共有）やパフォーマンス課題（単元を通した学習課題）の設定、「学ぶ相手」「ツール」などを選択できる環境づくりに意識的に取り組んできた。その結果、こどもたちは協働する（聴きあう）ことに慣れ、多様な学びが様々な場面で見られた。教師側もその多様な学びを認めながら、こどもたちに学びを委ねる意識が出てきた。

一方で、こども主体の授業においては、その授業の在り方や展開方法などの実践例が少ないことが現状である。授業が教師主導でないことによって、目標（めあて）の達成、知識・理解、学習内容の定着などへの教師側の不安感は強い。こどもにとっても「活動あって学びなし」のいわゆる学びの形骸化が起りやすいことが課題として挙げられる。

これらを踏まえ、「ともに学ぶ」「主体的に活動する」ことは中心に据えながらも、「こどもから出発する」その中身についてさらに深め、広げていく必要があると考えられる。これまでの授業観を転換しながら、予測困難な社会で生きていくこどもたちが必要な力をつけることができるよう今年度も研修主題を引き続き「ともに学ぶ楽しさを味わい、主体的に活動するこどもをめざして～こどもから出発する授業～」と設定し研修を進めていく。

研究する教科・領域は、全教科・全領域とする。これは「ともに学ぶ」姿や「主体的に活動する」姿は、特定の教科のみならず、どの教科・領域においても目指すところであり、これからの社会を生き抜くためには不可欠なものであると考えているからである。

### 3 めざすこどもの姿

低学年	「学びたい」「知りたい」という気持ちを持ち、意欲的に学習に取り組む。
中学年	様々な学び方を知り、学習課題に対して目標や学習方法を選択し、自ら学びに向かう。
高学年	学習課題に対して目標を設定・選択し、学習方法を自ら考え、調整しながら学びに向かう。自らの学びを客観的に振り返る。

### 4 研究内容

予測困難な社会を生きていく子どもたちにとってこれから必要になってくることは、「自ら学び続ける」ことであり、学び続けられる手段としての「情報活用能力」も必要であると考えられる。上記「主題設定の理由」も踏まえ、今年度は以下2つの柱を掲げて研修を進めていく。

- ①目的をもって自ら選択・調整できる学習の手立て
- ②系統立てた情報活用能力の育成

#### (1) 目的をもって自ら選択・調整できる学習の手立て

##### 学習の見通しをもたせる

★「やれそう」「できそう」と感じさせる

- ・「ゴール」の姿を明示して、子どもたちと共有する。
- ・学習活動や学習過程を共有する。
- ・その時間に何を学習するか(めあてや課題)、どうやって学習するか(使うツールやアプリ、場所や協働相手)を子どもたちが選択できるようにする。
- ・実生活(日常場面)との関わりを感じられる課題を提示する。
- ・「ルーブリック」を活用した自己目標を設定(選択)できるようにする。
- ・子どもの言葉でめあてや課題、問いを設定する。
- ・子どもの実態にあった課題設定を行う。

※簡単に達成できてしまう学習課題は、「学びの飽和」が起こり、学びが深まらない。

難しすぎる学習課題は「学びの停滞」が起こり、学習意欲が維持できない。

##### 一人ひとりに適した学びを保障する

★「相手」「内容」「ツール」「ペース」が選択できる

- ・子ども一人ひとりの実態(特性)を把握し、それに適した手立てを講じる。
- ・学習内容によって、学ぶ「相手」や「ツール」が選択できるようにする。
- ・どの方法が学びやすいか(表現しやすいか)という視点でツールを選ばせるようにする。
- ・子どもの学習状況を把握したうえで、学習内容を選択できるようにしておく。
- ・学習内容によって一斉指導で行うか、個別協働で行うかを判断する。

※すべて個別協働で行わなければいけないわけではない。指導すべきことはしっかり指導する。

※子どもたちが「思考できる内容」は個別協働で行うように意識する。

##### 協働する(学び合う)時間を確保する

★関わることで「考え」が広がる—深まる

【こまめなアウトプットさせる】

個人で考えたことは、意識的に他者へ伝える機会を設ける。情報を集めたり、結果を求めたりさせるだけでなく、それらを誰かにアウトプットすることで理解が深まり、知識として定

着する。

### 【ペア・グループ活動のねらいの明確に示す】

子どもたちの中に迷いが生じた時、新しい気づきが出た時、考えを広げたいとき、わからなさを共有したいときなどに、ペア・グループ活動のねらいを明確にして授業に取り入れる。

(例) ○自分の考えを確かにして深めるために。(自信)

○他の考えに気付き、思考を広げるために。(ヒント)

○考えの相違点・共通点を聞きあうことで思考を深めるために。(比較)

○考えを出し合い協働して解決するために。(協働、練り上げ)

○新たな考えを創り上げるために。(新たな発想)

※考えがもてない子どもも授業に巻き込む。「何が分からないのか」「どこまで分かったのか」「どう考えようとしたのか」の意見も共有する。

### 【学習形態の工夫】

各学年の単元目標(つけたい力)や学習内容・学習課題に応じて、多様な学習形態を工夫し、必要な場面や指導内容に応じて選択する。

○ペア学習 ○グループ学習 ○一斉学習 ○協働相手を選択

### 【ICT機器の活用】

学習内容や学習課題に応じて ICT 機器を効果的に取り入れる。子どもたちにただ使わせるのではなく、明確な意図をもって活用することが重要である。

- ・思考ツールを活用して、共通点や相違点などを整理したり、考えを広げたりさせて、それぞれの考えを視覚的に整理させて話しあわせる。
- ・「他者参照」のためにスプレッドシートなどを活用し、学びの進捗状況を確認する。
- ・共同編集機能を活用し、「全体」「ペア」「グループ」の中で、互いが同時に共有しながら学びを進めていく。

## (2) 系統立てた情報活用能力の育成

情報活用能力とは、世の中の様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、情報及び情報技術を適切かつ効果的に活用して、問題を発見・解決したり自分の考えを形成したりしていくために必要な資質・能力(現行学習指導要領より)のことである。情報活用能力は「学習の基盤」であり、全学年で系統立てた指導を行っていく。

### めざすこどもの姿

低学年	・資料を集めることができる。 ・情報活用のルールやマナー、端末の操作方法を知り、操作できる。
中学年	・ローマ字入力をはじめとした端末操作を自分でできる。 ・集めた資料や学んだことをアプリやソフトを使って表現することができる。
高学年	目的に応じてアプリやソフトを選択し、集めた資料や学んだことを効果的にまとめ、表現することができる。

各学年・学級において生活科や総合的な学習の時間の中で、週1時間～月2時間程度で実施していく。内容については「情報の時間年間計画」を参考に、他教科とも関連させながら実態に合わせて行う。

## 5 学習の基盤となる力を育む取り組み

### (1) 学習環境・学習規律を整える

こどもの学びが充実したものになるためには、学習環境や学習規律を整えておくことが重要な基盤となる。したがって以下の視点を大切に、誰もが安心して集中できる環境づくりを行っていく。

#### 【「わからない」が言える環境づくり】

こどもから出た「問い」や「疑問」から授業を始めるにあたっては、「問い」や「疑問」の声自体を受け入れてもらえる環境が必要である。すなわち心理的安全性が保障されている学習環境でなくてはならない。それは、「わからない」と言える環境であり、この関係づくり・なかまづくりについては、人権目標とも互いに関連させながら、日ごろからの「わからない」と言えることを価値づける意識をもって取り組んでいく。

#### 【学習規律を整える】

- ・時間を守ること（チャイムで始めて、チャイムで終わる）。
- ・学習に不必要なものは机に出させないこと。
- ・ノートづくりについて共通理解しておく。（共通理解事項は別紙）

#### 【きくことを大切にする】

- ・学年に応じた「きく」ことの指導を行う。
- ・「話したい」ではなく「ききたい」と思うこどもたちを育てる。

### (2) KOUタイム・朝の学習・読書の取り組み

	朝の読書	KOUタイム・朝の学習
目的	本に親しみ、読書の習慣を身に付け、言語力・思考力・集中力をつける。 (小説または字が多い本に限定)	【中・高学年】 国語モジュール学習(15分×3日) 算数の既習内容・基礎基本の定着 【低学年】 国語・算数の基礎基本の定着
日時	火 8時20分～8時35分までの 15分間	月・水・木・金 8時20分～8時35分までの 15分間
内容	自分の席で、自ら選んだ本を静かに読む。 一人2冊本をもっている状態が基本 2冊読み終わっても、その本を読み続ける。	・国語(漢字・読み書き・ローマ字) ・読むYOMUワークシート ・視写プリント
指導	※8時20分にこどもたちを着席させ、朝読を開始させる。	「授業」という位置づけである。放任とならないよう、“指導”する。

### (3) 図書館教育の推進

- ・図書館を効果的に活用した授業づくりを推進する。(調べ学習、探求学習)
- ・図書充実と図書室や学年文庫等の学習環境を整備する。
- ・図書本を活用した異学年交流を実施し、読書習慣の育成に取り組む。
- ・図書館だよりを通じて、保護者への啓発に取り組む。

(4) 家庭学習の充実

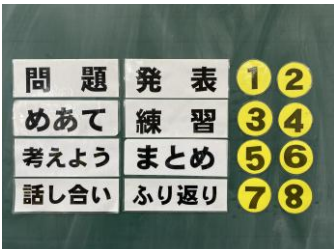
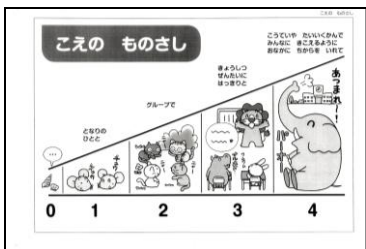

- ・家庭学習の内容や量、取組む時間等、学年の実態を踏まえて系統的に指導する。
- ・家庭学習の習慣を身につけるための取り組みを進める。
- ・「チェックシート」を活用し、生徒指導部と連携してスクリーンタイムについても家庭へ協力を呼びかける。
- ・「家庭学習の手引き」を作成し、家庭との連携をはかる。また、家庭での学習時間の確保についてこども同士で交流し、改善していけるような取り組みをする。
- ・自主学習や、自分で計画を立てての学習の推進をはかる。

(5) 夏期休業中の補充学習

- ・夏期休業中においては、2日間の補充学習を実施し、支援を必要とするこどもの基礎的知識・技能の向上をはかる。
- ・学習ボランティアを活用して、学校と地域が協力して学習にあたる。

(6) 掲示物の活用

- ・校内掲示板や階段、各教室などを活用し、学習用語や既習内容に関わるもの、こどものノート（学習の成果物）などを掲示する。
- ・全ての教育活動において言語活動を豊かにするため、学級の実態に応じて以下のものを掲示し、こどもたちに意識させるようにする。

<p>ユニバーサルデザインカード</p> 	<p>声のものさし</p> 
<p>発表の仕方カード</p>	
<p>せつめい上手な話し方</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 「〇〇が～だったら、□□は…」</li> <li>② 「〇〇のときも、□□のときも～だったから、☆☆も…」</li> <li>③ 「〇〇は～だったから、□□は…」</li> </ol>	<p>はつびょうのしかた</p> <p>いけん</p> <p>「～です。」</p> <p>「～とおもいます。」</p> <p>「まず、…」</p> <p>つぎに、…」</p> <p>それから、…」</p> <p>さいごに、…」</p> <p>りゆう</p> <p>「なぜかというと、～だからです。」</p> <p>さんせい</p> <p>「〇〇さんにていて、～です。」</p> <p>「〇〇さんにつけたし、～です。」</p> <p>ほんたい</p> <p>「〇〇さんちがって、～です。」</p> <p>しつもん</p> <p>「〇〇さんに、しつもんです。」</p> <p>「もういちど、いってください。」</p>
<p>話し名人・聴き名人</p>	<p>はかせどん</p>
<p>聴き名人</p> <p>話す人の目を見て</p> <p>手・足・背中 姿勢よく</p> <p>反応しながら最後まで</p> <p>自分の考えと比べながら</p> <p>分からないことを質問したり意見を述べたりする</p> <p>話し名人</p> <p>みんなの方を向いて</p> <p>最後まではっきりと</p> <p>相手の反応を見ながら</p> <p>聞きやすい声で</p>	<p>はやく</p> <p>かんたんに</p> <p>せいかくに</p> <p>どなたときも</p> 



## 6 研究方法

### (1) 全体研究授業

#### 【全体研究授業】

全教科・全領域…2本 人権…1本 を実施。

#### 【研究授業にかかわって】

- ・自習及び支援体制を整え、全職員が授業を参観する。
- ・事前検討会は学年部を中心に行う。ただし、授業者が希望した場合、自主学習会で実施する。
- ・教育委員会教育指導課より講師を招聘し、事後検討会を実施する。参観者から出された課題をもとに、授業改善に向けて全体で話しあう。「自分だったら」という視点で自身の今後の授業改善に繋げていけるようにする。
- ・全体研究授業を実施しない学年は、学年部別研究授業を実施する。
- ・全体研究授業、学年部研究授業をしない学級・教員においても、作成し、授業改善に努める。
- ・全体研究授業および学年部別研究授業の指導案は細案とする。  
※指導案の書き方については、別添参照。

### (2) 研究成果の検証

- ・学期ごとに実践を振り返り、こどもの姿から教師の働きかけについて、成果と課題を考察する。
- ・学習に関するアンケートを実施し、こどもの意識面の実態把握を行う。
- ・授業に関するループリック評価を行い、教師自身の指導の現在地を把握する。
- ・全国学力学習状況調査やスタディ・チェック等の分析を全教職員で行う。分析結果をもとに本校こどもの課題を確認し、授業改善をはかる。
- ・各学期のたしかめのテストに取り組み、学力の伸びや、各学年における課題単元をつかんで授業改善をはかる。

### (3) 各種研究発表会及び研究会への参加と還流報告会

- ・鈴教研委託発表会や各市町の研究発表会への参加を、教職員全員で行う。

### (4) 授業力向上にむけて

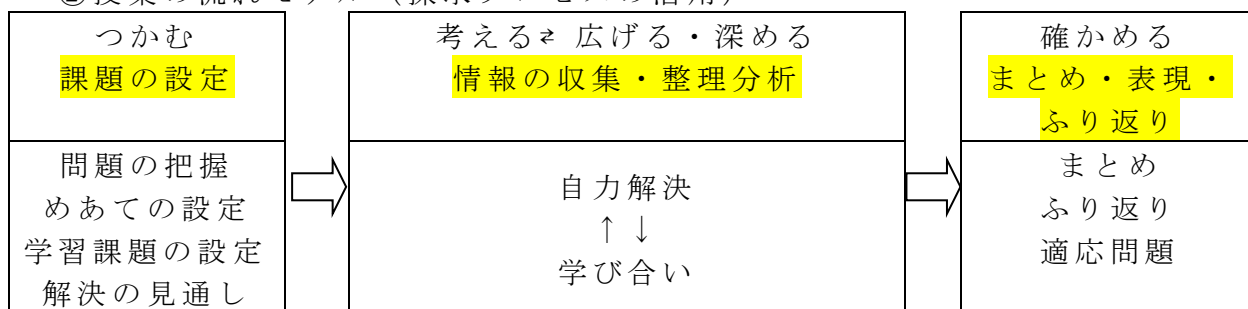
- ①「授業力 UP 5 ver2.0」や「国府小学校授業づくりの五か条」「すべてのこどもが安心して学べる授業づくり」をもとに授業計画を立てる。

# 国府小 授業づくり5か条



※NotebookLM で生成

## ②授業の流れモデル（探求プロセスの活用）



### 【つかむ（課題の設定）】

「めあて」とは、教師のねらい（本時の目標）を子どもの立場で示したもの。「問題」や「課題」となる場合もある。

- ・子どもたちから出た問いや子どもたちの知的好奇心を高めるような問題、身近な生活に関する必然性のある問題などを提示する。
- ・本時の目標（ゴール）に沿っためあてや学習課題を設定する。
- ・子どもが学習課題や目標を選択する。
- ・学習の流れについて、子どもと共有する。
- ・既習内容を使って考えることができないか解決の見通しをもたせる。

### 【考える・広げる・深める（情報の収集・整理分析）】

- ・必要に応じて学習用語などの既習内容をヒントカードとして提示し、自力解決の支援をする。
- ・思考ツールを活用して、自分の考えを整理させる。
- ・操作活動を取り入れて思考を表現させることで理解を確かなものにさせる。
- ・自力解決で答えを導き出せなかった場合でも、分からなかったことや分かったところまでを言わせたり、かかせたりする。
- ・分からなかった、考えをもてなかったという子どもの声を出発点に話合わせていく。
- ・子どもの発言を他の子どもに再度説明させたり、補足させたりしながら、子どもたちの発言を繋いで練り上げさせる。

### 【確かめる（まとめ・表現・ふりかえり）】

- ・まとめは、発達段階に応じて、教師と同じ言葉でまとめたり、穴埋めの言葉を埋めさせて確かめたり、指定されたキーワードを用いて自分の言葉でまとめたりさせる。
- ・「ふり返し」とは、「めあて」「問題」「課題」に立ち返り自己評価を行うこと。上記の視点でふりかえることでその後の学習につなげられるようにする。
- ・ふり返しは、以下の視点で書かせる。

- 1：「学習したこと（内容）」は何か。
- 2：「わかったこと」と「わからなかったこと」は何か
- 3：誰と学んだのか（または1人だったのか）、なぜその子と（または1人で）学んだのか。
- 4：これからにつなげること（疑問に思ったこと/これから気をつけたいこと/次にやってみたいこと など）は何か。

※「めあて」と「ふり返し」や「問題・課題」と「まとめ」は正対しているかどうかには気をつけること。

③ 学期ごとに2週間のぐるぐるウィーク（授業参観ウィーク）の機会を設定する。参観者は授業者へ学びになったことなど意見交換する。また、ぐるぐるウィーク期間外であっても、全教員の週予定表を職員室に貼り出し、いつでも自由に授業を見合えるようにしておく。

④ 教師のニーズに応じて、教材研究や指導法についての自主学習会を実施する。

## 7 年間計画

	実施内容（予定）
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2026年度研修実施計画作成（4月）</li> <li>・ ノート指導共通理解（4月）</li> <li>・ 学調、みえスタ（4／23）自校採点及び結果入力と分析</li> <li>・ 授業力向上にむけた取り組み（ぐるぐるウィーク）</li> <li>・ 全体研究授業・学年部研究授業（教科）</li> <li>・ 自主学習会、実践交流会</li> <li>・ 夏期休業中の補充学習</li> <li>・ 学調、みえスタディ・チェックの分析</li> <li>・ 単元まとめテストの分析</li> </ul>
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全体研究授業・学年部研究授業（教科・人権）</li> <li>・ 授業力向上にむけた取り組み（ぐるぐるウィーク）</li> <li>・ 自主学習会、実践交流会</li> <li>・ アンケート実施</li> </ul>
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第2回みえスタディ・チェック 自校採点及び結果入力と分析</li> <li>・ 自主学習会</li> <li>・ 各学年及び研究のまとめ（2月中）</li> <li>・ 来年度の方向性（3月上旬）</li> </ul>